

「障害役者」を語る 柳浩太郎



2012年 12月15日(土) 東部フレンドホール
開場 13:30 開演 14:00 江戸川区瑞江2丁目5番7号

定員: 300名
費用: 無料

高次脳機能障害は、交通事故や頭部のけが、脳卒中などで脳が部分的に損傷を受けたため、言語や記憶などの機能に障害が起きた状態をいいます。

今回、交通事故の後遺症で高次脳機能障害を抱えながらも、俳優として活躍されている柳浩太郎さんにお越しいただき、普段の生活や仕事をしていくなかで工夫していることなどをご講演いただきます。

また、高次脳機能障害の専門医である、三軒茶屋リハビリテーションクリニックの長谷川幹さんに、神経医療の立場から、地域でのリハビリテーションについてお話しいただきます。

問合せ・申込み: 地域活動支援センターはるえ野
TEL 03-5664-6070 E-mail info@soteria.jp

平成24年度 江戸川区高次脳機能障害者支援事業

主催: 特定非営利活動法人 東京ソテリア・江戸川区 健康部 保健予防課



www.soteria.jp



「障害役者」を語る — ところの絆をつなげよう —

柳浩太郎(やなぎこうたろう)は俳優集団D-BOYSのメンバーです。

2003年、ミュージカル「テニスの王子様」の越前リョーマ役で、主役に起用されました。

初主演ながら大成功し、これからの活躍を期待された、ちょうどその時、舞台稽古からの帰宅途中に、自宅付近で交通事故にあい頭部を強打。意識不明の重体となりました。

一時は、死を覚悟するほどの危険な状態でしたが、三週間後、奇跡的に意識を取り戻しました。その後、家族や仲間の励ましと、一年間のリハビリテーションを経て、驚異的なスピードで舞台に復帰しました。

この事故により、高次脳機能障害と呼ばれる後遺症が残りました。高次脳機能障害とは、頭部の打撲や脳卒中などで脳が部分的に損傷を受けたため、言語や記憶などの機能に障害が起きた状態をいいます。

俳優として、「セリフが覚えられない」「音程がとれない」などの障害を抱えながらも、障害があるがゆえの独特の存在感をいかし、映画・ドラマ・舞台など、多方面にわたって活躍をしています。

「言葉も動きも拙くたって、与えられた役の人生は生きられる。ボクは障害者であっても、ボクの夢をあきらめない。」(著書「障害役者」より)と、懸命に舞台に立ち続けるその姿は感動を集めています。

この講演では、交通事故からの復活と、それを支えた家族や仲間、また、障害をもつ者として、健常者とともに生きていくことの難しさ、素晴らしさについてお話しします。

高次脳機能障害

高次脳機能障害とは、交通事故や頭部の外傷、脳梗塞などによって、脳に損傷を受けたために生ずる障害。

「以前と人が変わったみたい」「なにもする気が起きない」「すぐに忘れてしまう」などの問題を引き起こす。

厚生労働省によると、患者は全国に約三十万人、年間に数千人の新規発症があると推定されている。

しかし、外見上では障害とわかりにくく、医療や保健福祉の領域でも十分に理解されているとはいえない。リハビリテーションには、医学的プログラム、生活訓練、職能訓練などが必要とされ、地域社会においても、正しい知識の普及が求められる。

オブザーバー

長谷川幹

三軒茶屋リハビリテーションクリニック院長。高次脳機能障害の専門医。在宅の障害者と高齢者が、その人らしい生活を自ら実践することができるよう支援中。「リハビリ医の妻が脳卒中になった時」「あせらずあきらめず地域リハビリテーション」など著書多数。



野口博文

地域活動支援センターはるえ野管理者。国立精神・神経医療研究センター、チューリッヒ法務局(スイス)などでの研究職を経て、2009年にNPO法人を設立。地域での高次脳機能障害者支援を模索中。障害者ケアホーム、就労支援事業などの施設を運営。



日時と会場

日時

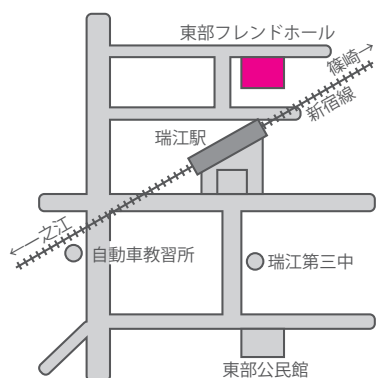
2012年12月15日(土)

開場 13:30 開演 14:00

会場

東部フレンドホール

江戸川区瑞江2丁目5番7号



問合せ・申込み：地域活動支援センターはるえ野
TEL 03-5664-6070 E-mail info@soteria.jp

平成24年度江戸川区高次脳機能障害者支援事業

主催：特定非営利活動法人東京ソテリア・江戸川区健康部保健予防課



www.soteria.jp

